別紙３

研修の概要	
研　修　名	**第４ステップ研修**
研修目的	60 歳の職員が、定年引上げや役職定年制の導入などにより役割や立場が変化する中、モチベーションを保ちながら、組織の一員として自身の能力を最大限に活かしたパフォーマンスを発揮するために有用な考え方やスキルを習得する。
受講対象者	令和 10 年４月１日現在 60 歳であり、令和 10 年度も引き続き県の常勤職員又は定年前再任用短時間勤務職員として勤務を希望する者
受講人数	約 80 名　（午前 約 40 名、午後 約 40 名）
研修希望日時	令和 10 年２月上旬（１日　計６時間） 〈午前〉 9:00～12:00（３時間）（課長級以上（管理職）の職員向け） 〈午後〉13:30～16:30（３時間）（課長補佐級以下（非管理職）の職員向け）
予定実施回数	１回
研修方法	・対面による集合研修 ・受講者の属性に応じたより効果的な研修とするため、午前は課長級以上（管理職）、午後は課長補佐級以下（非管理職）の職員向けに分けて実施する。 ・講義と演習（個人ワークとグループ（２名以上）ワーク）を組み合わせること。 ・グループワークでは、他者との意見交換からの気づきや学びを得られる工夫をすること。
研修内容	・職位・職責・処遇の変化等に適応して、今後の自身の働く環境について理解を深め、気持ちを新たにすることを促すものであること（スムーズなマインドセット）。 ・スタッフの一員として働くために必要なソフトスキル（フォロワーシップ、怒りを抑える力、コミュニケーション力など）を学ぶものであること。 ・上記のほか、最高のパフォーマンスを発揮し続けるためのノウハウがあれば教授すること。 ・午前と午後の講義内容は、受講者の属性の違いを十分考慮すること。
留意事項	・引き続き県職員として働き続けることを希望する職員を対象としており、転職を促したり、今後の人生設計を考えたりするものではないことに注意すること（キャリアデザイン研修ではない）。 ・令和 10 年４月以降の配置先は通常の人事異動の枠組みで決まるため、本人の希望どおりの所属に配置されることは少ないことに注意すること。 ・提案する研修内容に独自の特色ある内容（受講者の「気づき」や「腹落ち」を誘発する特記事項）がある場合は、それを明記すること。